

「豊かな情操を培うこと～音楽の教科教育を通して～」

- 義務教育における情操教育の意義は何か。
②高等学校における情操教育の意義は何か。

情操を培うことは日本の教育の基本目標の一つであると明確に位置付けられている。

- ・教育基本法第一条(教育の目的)
教育は、**人格の完成**を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。
- ・教育基本法 第2条（教育の目標）一項
「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、**豊かな情操**と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」

「小学校音楽科の目標」学習指導要領(平成29年告示)解説から抜粋

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、**豊かな情操を培う** 色付け 筆者

「豊かな情操を培うこと～音楽の教科教育を通して～」

②高等学校における情操教育の意義は何か。高等学校学習指導要領(平成30年告示)芸術解説から(抜粋)

芸術科の各科目の学習を通して**培う豊かな情操は**、各科目共通の目標である。情操とは、美しいものや優れたものに接して感動する情感豊かな心をいい、情緒などに比べて更に複雑な感情を指すものとされている。芸術によって培われる情操は、直接的には美的情操が最も深く関わっている。美的情操とは、例えば、音楽を聴いて美しいと感じたり、美術作品や工芸作品、書の美しさに触れたりして、美しいものやよりよいものにあこがれ、それを求めていこうとする豊かな心のことである。このような豊かな心は、美だけに限らず、より善なるものや崇高なるものに対する心であり、他の価値に対しても通じるものである。教科の目標(3)では、従前同様、豊かな情操を培うことを重視するとともに、「学びに向かう力、人間性等」の涵養を目指し、教育の普遍的、最終的な目的である、望ましい**人格の完成**を目指している。 色付け 筆者

情操とは:美しいものや自然に感動する心、豊かな人間関係を築くための感性、道徳性の基礎となる心の働き、芸術・文化・表現活動の中で育つ心情など、人格形成の基盤となる感受性・情緒の総体。

→芸術に限らない…どの教科教育、生涯教育でも、培っていくものですよ。 **特に青春期!**

(例)小学生の時:初めて理科で岩石の学習にであった。驚きとともに心が動いた!化石や石灰岩,エネルギーに思いを馳せた。中学生の時,島崎藤村の「若菜集-二つの声」に心が動いた!それは「音風景」を楽しむことにつながった。高校の時,ホルストの「惑星」を聴いた。たまげた!生まれる50年前の作品「未知との遭遇」レ・ミッド・ド・ソ ジョン・ウィリアムズ

特に青春期! 全ての出会い,学び等が「豊かな情操を培う」文理横断的に学ぶ。様々な人、リアルな社会の変化・フェーズに出会う。協働して地域社会で学び、感性を働かせながら、自らの未来に思いを馳せる
→知の連鎖「心ある知力」を! 私は「感性を豊かに働かせながら学ぶことを重視し、その学習を

impress distill・crystallize express **学習と**

どのように音楽教育をしているのか。音楽を教える上での難しさや問題点は何か。

令和4年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点(国立教育政策研究所)音楽 抜粋

児童質問紙調査(以下「児童質問」)において、

「音楽の学習をすると、心が豊かになると思う」肯定的な回答は約7割

「音楽の学習をすると、明るく楽しい生活ができるようになると思う」約7割

「音楽の授業で学んだことは、私たちの生活や社会でいかすことができると思う」約6割

「音楽の学習をして、いろいろな曲のよさやおもしろさ、美しさを感じ取れるようになった」約8割

教師質問調査

「音楽づくりの学習」

即興的に表現する活動と、音を音楽へと構成する活動の2つを意識して指導、約7割。ただし、「児童が身に付けやすい」という肯定的な回答の割合は、学年が上がるにつれて低くなっている。

「我が国の音楽や郷土の音楽に親しみ、よさを味わったり、愛着をもったりすること」

児童の興味・関心、身に付けやすさ、学年が上がるに連れて肯定的な回答の割合が減少。

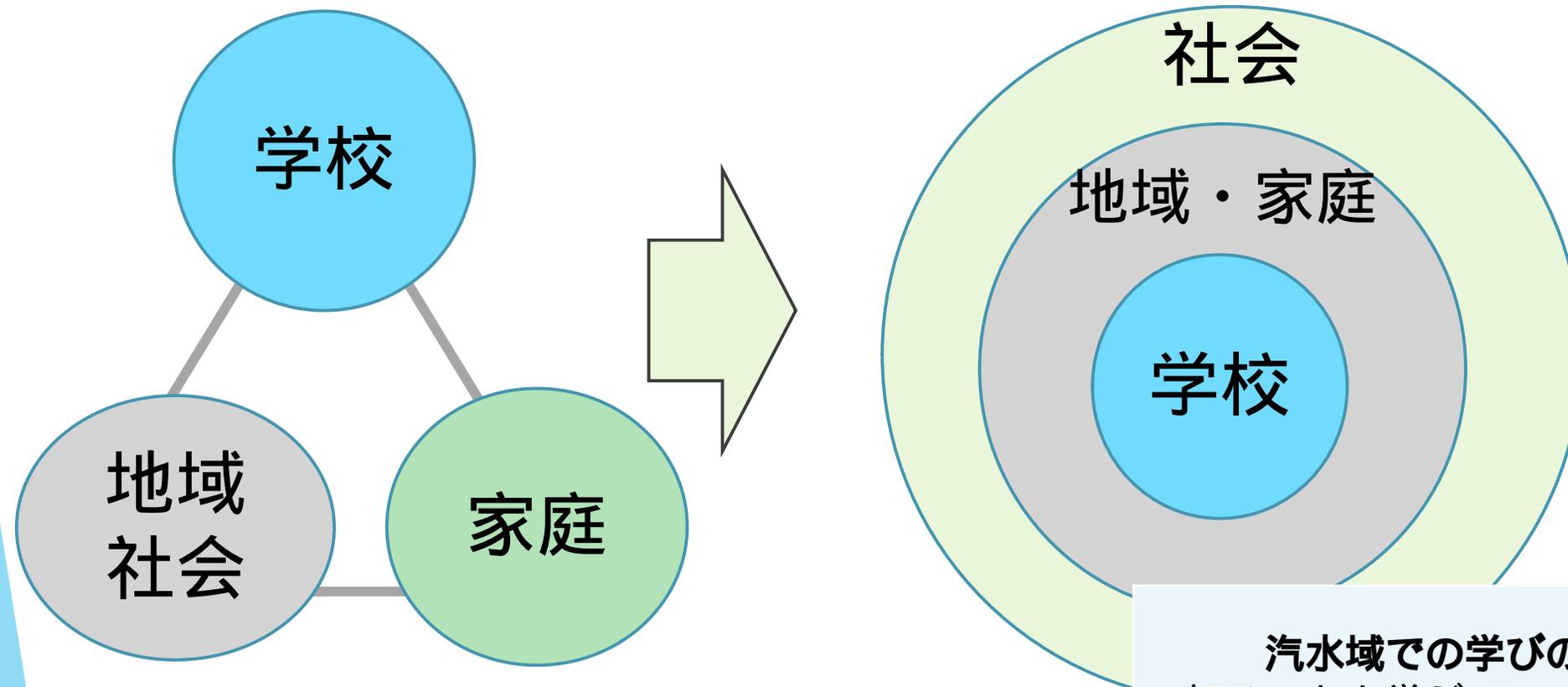
「音楽科と他教科等との関連を図った授業」肯定的な回答の割合は約5割。

概ね教科音楽の価値は実感している。

学年が上がるほど低下 学年進行に伴う難易度・手立て不足が課題。低学年～高学年の系統性の設計、指導法の連続性！自らの感性や創造性を働かせ、自分にとって価値のある音や音楽を表現。低学年から専科とTT

「生活や社会の中の音楽」 音楽はなんで勉強するの？ 子どもが地域・社会で体験的に学ぶ機会 郷土の音楽・音楽文化が、どんな役割・価値を社会で持っているか。 地域・社会で学ぶ。 沖縄・エイサー

調和と協調のWell-being 汽水域をつくる



支援 参画
Co-Agency

汽水域での学びの展開

- 1 知ることを学ぶ (Learning to Know)
- 2 為すことを学ぶ (Learning to Do)
- 3 共に生きることを学ぶ
(Learning to Live Together)
- 4 人間として生きることを学ぶ
(Learning to Be)

「豊かな情操を培うこと～音楽の教科教育を通して～」

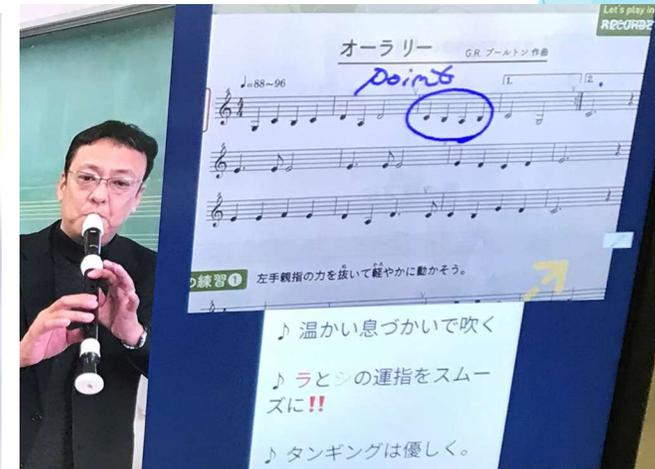
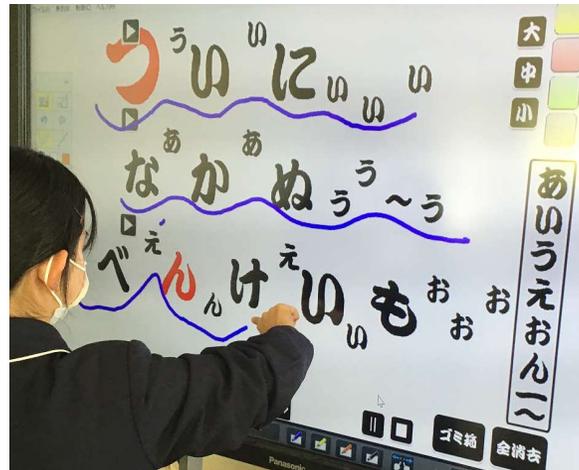
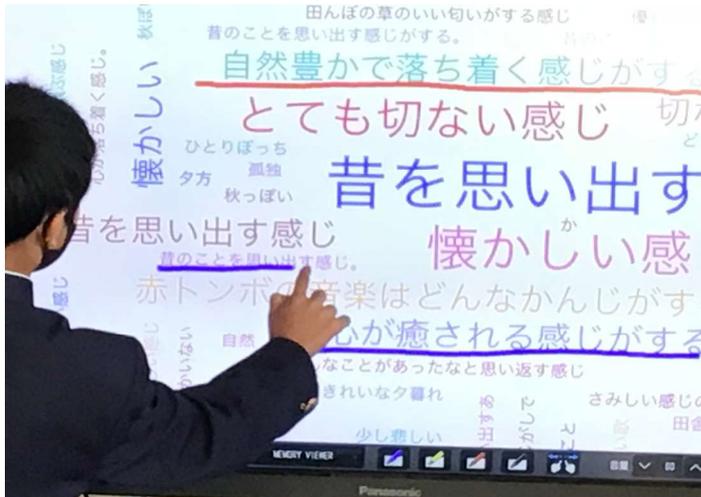
コロナ下で音楽教育をどのように実施したか。その反省点は何か。

○ネットワークを使って、情報収集、そして、対応していった。
児童・生徒・職員等の安全環境を整える。 空間、時間割の調整
現場の状況・情報をあげながら。通知に基づいて実施
見通しが持てたところでの、組織的によりよい学習環境の確保。

教科教育の特性。「3密」 安全・安心の確保に対する責任から学びを止めてしまう。

○新たな活動の在り方が生まれた。

校庭の木々の下で個々がリコーダーを奏でたり、歌ったり、ガレージバンドを活用したり・・・。特にICT環境整備が先に進んでいたことは大きい。音楽でも大いに活用できた。



「豊かな情操を培うこと～音楽の教科教育を通して～」

楽器の購入や更新が必要であるが、その費用の捻出、楽器維持の問題点などはないか。

学校備品として授業等で活用する楽器は毎年の**経常予算**で持続可能であるとみている。

熊本市の部活動に対する、補助予算としては、課題はある。いままでは、個人で購入したり、過去には、重点校として順番に購入した時もあった。熊本市の各地区や行事に非常に貢献していたからでしょう。そして、多くのこどもたちに！

楽器の値段の高騰。特に、部活動で使用する楽器。リードとかの購入。メンテナンスだけで精一杯。新しい音楽部活動の在り方によっては、**政策予算**が必要な場合も出るであろう。

ないものねだり、あるもの探しという視点では、地域社会に眠っている楽器の寄付など。

音楽部活動において、コンクール等、競うこと、技能の上達にウェイトを置きがちであるが、指導者は「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。そして、美的情操を主に培うのではあるが、生涯にわたって、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養う」ということなど、自らが携わっている指導の価値に思いをもっておくべきでしょう。

これからの部活動。参考： 「エル・システマジャパン」② スポーツと文化芸術の融合，

エル・システマ：貧困や治安の悪化という問題を抱えていた南米ベネゼイラで、こどもたちを守るために始まった音楽教育プログラム。現在，日本も含め，70以上の国・地域で展開。

②マルチスポーツの先にある，スポーツと文化芸術の融合。美しく振る舞う，生き方。